

尊厳死 かごしま

第 16 号

発行 日本尊厳死協会 かごしま
 事務局 〒891-0104 鹿児島市山田町 2071-1
 「ふれあいの里 山田」内
 TEL 099-264-8818 FAX 099-265-8290

患者さんの生と死から学ぶこと —第15回公開懇話会開催—

日本尊厳死協会かごしま 理事 池田 モト子

日本尊厳死協会かごしま第15回公開懇話会は、平成20年8月23日(土)「リナシティかのや」(鹿屋市民交流センター)で行われました。初の地方での取り組みで、当日は雨模様にもかかわらず、53名の参加がありました。



前回好評を得た「患者さんの生と死から学ぶこと」のタイトルで国立病院機構南九州病院院長の福永秀敏先生が講演されました。南日本新聞の論点に寄せた『延命治療と尊厳死』『死の身づくろいと「がん告知」』の2点を資料として提供し、スライド上は開聞岳を背景にした美しい菜の花畑が写し出されました。ご自分の生まれ育った顛娃町を紹介して、還暦を過ぎ、父親の生きた年齢を越えた今、人生を振り返り、故郷をよく思い出すことや、同時代を生きてきた団塊の世代の行く末が気がかりで案じていると話されました。

多くの患者さんとの出会いと別れの話の始めには、先生の実顔が描かれたエンピツ画が画面に現れました。筋萎縮症の患者さんY氏が時間をかけ、気持ちを込め仕上げた作品で、症状である手の振るえが髪

のウェーブを表現するのに役立ったそうです。他にも、16歳で天寿を全うする1ヵ月前まで英検にチャレンジしたN氏、34歳で亡くなったT氏はベッドの上から情報を発信し、交流を持った結果、今でも彼を慕って全国から研究者達が集まって来るなど、ハンディキャップ障害が、決して悪い面ばかりではないと教えて下さいました。

次に、二人称の死として内科医であった義父の死を紹介。口腔癌が見つかったその足で遺影のための写真を撮りに出かけ、最後まで不安感など一度も漏らすことはなかったようです。ありのままに人生を受け入れ、山桜の咲きほこる時に人生を閉じられたお姿は、先生をして「贅沢ともいえる死」と言わしめています。また、緩和ケア棟で肺癌で亡くなられた女性は、生前に「私は確実にこの世を旅立つ人です。癌を告知されて寂しい、怖いと思ったことはありません。ある日ふわっと違った階段を上っているか、ふんわり飛び上がっているかもしれないと思えるのです」と書き残されました。パーキンソンの妻を長年手厚く介護されたK氏の死もまた先生の心に深く残っているお一人です。告知をしなかった(できなかった)娘さんの葛藤と、穏やかな告知で励まし共有できたかもしれないという先生の思いが伝わってきました。人の一生は①生老病死を奏でる旅②偶然やたまたまに支配される③万事塞翁が馬である④生きがい探しの旅であるとまとめられました。

人は誰しも安らかな死を望むと思うが、現実なかなか難しく、死を間近に体験できないこの頃は若い医師は延命に頑張り、最後の場面では取り囲む人

々の合意ができにくいので、人生観や経験が大切だと語られました。医師としては、患者さんの生前の気持ち、家族の気持ちを酌み、良い死なせ方ができた時、悔いが残らないものなので、みんなが「良かったな」と思える死が望ましいと考えておられます。今回の話が尊厳死を考えるきっかけになればと結ばれました。

講演後の質疑応答も、人工呼吸器や筋ジス病棟での死の教育、在宅での看取りなど活発に行われました。人工呼吸器については簡単につけられるが一旦

つければ外すことができず、医師が告発されたりするため、法制化を望むことと付けるにあたっては、本人、家族とも相当の覚悟が必要であることを経験を通して感じているとの言葉がありました。アンケート結果も、ほぼ全員の方が大変良かったと答えて、めいめいが生と死を考えるきっかけになったようです。2回にわたり講演して下さった福永先生に感謝申し上げます。また、ご協力いただいた小倉記念病院の宇住庵さんをはじめ、スタッフの方々ありがとうございました。

最期の時を患者様に寄り添える看護師をめざして

日本尊厳死協会かごしま 理事 上原 充世

鹿児島純心女子大学看護栄養学部看護学科では、平成6年の開学当初から3年生に「緩和ケア学」を60時間、平成18年から2年生に「死生学」15時間の授業を開講しております。開講当初の4月に学生の「死に対するイメージ」について調査してみました。学生の「死に対するイメージ」は、「こわい」「悲しい」「寂しい」「別れ」というようなマイナスイメージが強く、自分とは“遠い出来事”として捉えている学生が多いでした。また逆に「生きる」とは？と質問すると、当たり前のことなので考えにくいといった状態でした。

緩和ケア学では、①人生の最期を迎える人々のtotal painを理解し、②人間として生きることの意味を探求し、③尊厳ある死を迎えられるよう患者・家族の援助について学び、④学生自身の死生観・人生観を培うことを目的として授業を展開しております。主な内容は、「症状コントロール」「スピリチュアルケア」「尊厳死・安楽死など倫理的問題」「在宅ホスピス」「家族ケア、グリーフケア」などなど、現場で活躍されている様々な講師の特別講義や学内の教員の講義に加え、事例を通してのディスカッショ

ンなど合計60時間の授業を行っております。授業終了時に再度、「死に対するイメージ」「生きる」とは？など調査してみました。「死に対するイメージ」は、「その人らしく最期まで行きぬくこと」「姿、形はなくなるが人のこころの中で生き続けること」「死は生の延長線上にあり誰にでも訪れるもの」など肯定的なイメージへと変化しております。また、死を考えることは、「生を考えること」「今をより良く生きること」というような死生観や人生観を持っておりました。そして、最期の時を迎えている人に対して、逃げずに共に死について語り合える、傍に寄り添って温かい存在で在りたい。患者様の要求に応えられないかもしれない、しかし、傍に居ることで相手がほっとなさるような看護師で在りたいと望んでおりました。このように授業を通して学生の「死に対する」考えが大きく変化しております。「緩和ケアや尊厳死」に関わっている者としては大変嬉しく思います。実際の場面で行動が伴うかどうかは分かりませんが、患者様に寄り添える感性豊かな看護師として成長していくことを期待し学生の教育に携わっております。

「尊厳死出前講座」を行います

日本尊厳死協会かごしま 事務局

日本尊厳死協会かごしまでは、平成15年より、公開講演会・公開懇話会を開催、また、役員の講師派遣を行い、広く県民の方々へ「尊厳死にかかわる話題」の講演を行ってきました。

今年度より、より幅広く理解していただくために、

『尊厳死出前講座』と称した、各種グループや町内会・校区単位等への講師派遣を企画いたしました。ご希望の方は、事務局へご連絡いただければ、日程等調整していきます。

「日本尊厳死協会かごしま」のホームページが開設されました

日本尊厳死協会かごしま 事務局

最近、インターネットにホームページを作成して、これを閲覧してもらうことで広報活動を活発化することが重要視されています。そこで、「日本尊厳死協会かごしま」でも、2008年7月27日から、ホームページを開設しました。

アドレスは、<http://www5f.biglobe.ne.jp/~osame/sonngen/index-s.html> ですが、「尊厳死かごしま」などのキーワードで検索しても閲覧することが可能

です。

このホームページには、現在、「かごしま」のこれまでの歩みやホスピス（緩和ケア）、会報「尊厳死かごしま」の創刊号から最新号まで、日本尊厳死協会への入会案内、関連ホームページへのリンクなどがあります。今後、皆様のご意見なども参考にしながら、内容の充実に努めていく予定ですので、ご協力をお願いします。

読者の声

鹿児島市在住 匿名希望

私事3、4年前に兄、姉と癌で亡くなりました。姉がまだ発症していないとき、私共々、兄の臨終に付添い、その悲惨さを目に致しました。その2年後、姉の発症です。看護師の娘が退職して、家で看取ってくれました。

兄の死の後でしたので、姉は自分の意思で納得したものと思います。このあたりの始終を姪に聞いた

いのですが、いまだに姪の心情を思えば聞くに堪えないところです。

講演を2回聴かせていただきました。生前に人はもっと尊厳死のことを知るべきだと痛切に思います。今までいただきました資料をいま一度読み返してみようと思っています。

「尊厳死法制化を考える議員連盟」へご参加ありがとうございます

日本尊厳死協会かごしま 会長 納 光弘

周知のように、日本尊厳死協会は、かねてから「尊厳死の立法化についての請願書」などを厚生労働大

臣や衆参両院議長に提出して、尊厳死法制化の活動を活発に行っています。

これに対応して、2005年に「尊厳死(仮称)法制化を考える議員連盟」(中山太郎会長)が結成され、さまざまな活動が行われています。

なお、この議員連盟に入会している衆・参両院の議員数は、2008年6月6日現在97名ですが、そのう

ち鹿児島県関係は、池田洵理事のご尽力と相まって、宮路和明・徳田毅・小里泰弘・森山裕・保岡興治・南野知恵子・野村哲郎・尾辻秀久・加治屋義人(順不同・敬称略)の9名の先生方が会員になっておられます。

今後、先生方の益々のご尽力によって、尊厳死法制化が一日も早く実現することを期待しております。

☆役員会の動き☆

第2回 平成20年10月4日(土) 午後4時より開催 役員8名出席

- 議題 1. 運営方針…運営費は縮小となったが、今後も「ニュース」の発行・公開懇話会は継続していく
2. ホームページ編集方針…原案通り承認された
3. 公開懇話会・総会等…原案通り承認された
4. 活動報告…各種会合・講演会への講師参加報告
5. 次回公開懇話会…開催要項の報告

＝ 第16回「公開懇話会」のご案内 ＝

と き：平成20年11月29日(土) 午後1時30分～3時30分

と ころ：かごしま市民福祉プラザ5階

演 題：「生と死・どう向き合うか」ホスピスの現場から

講 師：斉藤 裕 先生(相良病院 副院長)

●入場無料●

＝ 第17回「公開懇話会」のご案内 ＝

と き：平成21年2月21日(土) 午後2時～4時

と ころ：枕崎市市民会館(大ホール)

演 題：「より良い生の延長としての尊厳死」

講 師：大瀬 克広 先生(サザン・リージョン病院 麻酔科部長・緩和ケア病棟長)

●入場無料●

＝ 平成21年度総会・公開講演会 ＝

と き：平成21年4月18日(土) 午後2時～4時(予定)

と ころ：鹿児島県歴史資料センター「黎明館」

●入場無料●

編集後記

今年も、土手の彼岸花が咲きました。自然は、折々の景色を楽しませ、元気づけてくれます。自然の恵みに感謝し、大切に大切に思う毎日です。11月の公開懇話会、是非ご参加下さい。(K. F.)